

# 平成22年度 杉並区事務事業評価表

事務事業名		知る区ロード		款	5	項	1	目	2	事業	6	整理番号	371
担当部課名		都市整備部まちづくり推進課		係名	景観係		連絡先電話番号		3363		昨年度整理番号	358	
上位施策No・施策名		3 住民参加のまちづくり		予算事業区分		既定事業							
事務事業の概要	事業開始	昭和	▼	62	年度	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	政策番号	施策番号	事業コード	<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 主要事業	
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理		区民等		根拠法令等		(1) 杉並区まちづくり基本方針 (2)					
	事業の目標	(対象をどのような状態にしたいのか)		○みどり豊かな杉並のまちを歩くことにより、見慣れた風景から新しいまちの魅力を再発見し、まちに親しみを持つ人を増やします。		活動指標名(式)		(1) 知る区ロードホームページアクセス数 (2)					
	活動内容	(事務事業の内容、やり方、手順)		○知る区ロードのパンフレット、探検地図の作成及びホームページの開設により情報提供を行う。 ○知る区ロードのルート上にある道標や休憩所(オアシス)の維持管理を行う。		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標 成果指標名(1) (代)知る区ロード資料請求数/ホームページ閲覧数 算定式・指標の説明等 成果指標名(2) 算定式・指標の説明等					
区分		単位	19年度		20年度		21年度		22年度		目標値に対する21年度の達成率%	計画に対する21年度の達成率%	
			実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	(目標値)			
指標	活動指標(1)	①	人	992	5,000	4,771	5,000	3,078	5,000	61.6	61.6		
	活動指標(2)	②	部	10,000									
	成果指標(1)	③	%	6.75	1.00	0.18	1.00	0.16	1.00	16.0	16.0		
	成果指標(2)	④											
総事業費・コスト把握	事業費	⑤	千円	6,162	1,293	757	1,130	291	1,000	21年度予算執行率% 25.8			
	(内)投資的経費等	⑥	千円	0	258	257	0	0	0	特記事項 執行残の理由は、知る区ロードパンフレットの残があったため、チラシ等の印刷を見送ったためです。20年度以降の活動指標は知る区ロードのイベント、すぎ丸マガジンの発行を休止し、情報提供を主とした事業に転換したことから、区民と協働運営している知る区ロードのホームページアクセス数としました。			
	(内)委託費	⑦	千円	2,507	478	357	120	5	120				
	職員数(常勤 非常勤)	⑧	人	0.90 0.00	0.20 0.00	0.20 0.00	0.10 0.10	0.10 0.10	0.20 0.00				
	人件費	⑨	千円	8,226	1,810	1,810	888	888	1,776				
	(内)非常勤職員分	⑩	千円	0	0	0	279	279	0				
	総事業費⑤+⑨+⑩	⑪	千円	14,388	3,103	2,567	2,297	1,458	2,776				
	単位あたりコスト((⑪-⑥)÷①)	⑫	円	14,504	569	484	459	474	555				
	財源	⑬	千円	0	0	0	0	0	0				
	受益者負担分	⑭	千円	0	0	0	0	0	0				
国からの補助金等	⑮	千円		0	0	0	0	0					
都からの補助金等	⑯	千円		0	0	0	0	0					
その他の補助金等	⑰	千円		0	0	0	0	0					
特定財源計(⑬+⑭+⑮+⑯)	⑱	千円	0	0	0	0	0	0					
差引:一般財源(⑱-⑬)	⑲	千円	14,388	3,103	2,567	2,297	1,458	2,776					
受益者負担比率⑬÷⑪	⑳	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					

※19年度の国からの補助金等欄の金額は都からの補助金等、その他の補助金等を含む

# 平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 371

21年度の事業実施状況	内容	規模	単位	事業費(千円)
(1)主な取組み ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	はなのオアシス修理	1	箇所	142
	知る区ロードホームページ運用(すぎまるサポーター)	1	件	8
	景観イベント等で知る区ロード探検地図、パンフレットの配布			0
	その他(オアシスのアロマオイル補充など維持管理等)			141
(2)事業実績	すぎまるサポーター等区民と協働し、知る区ロードのホームページを開設し、情報提供を行いました。道標・オアシスの維持管理を継続して行っています。景観週間など、景観まちづくりのイベントにおいて探検地図やパンフレットの配布を行いました。			
事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業当初の知る区ロードイベントは約1万人の参加者がありましたが、最近は減少傾向となっていました。19年度の20周年記念イベントでは、前年度に比べ200人ほど参加者が増えましたが、知る区ロードの日イベント自体は20周年をひとつの区切りとし、休止としました。このため、すぎまるマガジンの発行も同時に休止としています。		
	事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	20年度以降、知る区ロードイベントの実施が休止になり、毎年楽しみにしている子どもや家族から、残念だという声があります。また、ホームページなどで知る区ロードを知った人から過去のすぎまるマガジンやイベントについての問合せがあります。		
	今後の予測	知る区ロードは、区民に自分たちのまちを歩いて知ってもらう普及啓発事業の一環としてはじめた事業です。昨今、メタボリックシンドロームの予防対策など健康志向の中で歩くことが注目されています。他課と連携しながら、これまで築きあげてきた資産を活用しながらまちを知る事業として継続していきます。		
事業のあり方点検	左の理由または具体的内容			
	(1)施策への貢献度は大きい 貢献度 中(理由→)	「知る区ロード」が直接、まちづくりに結びつくわけではありませんが、杉並独自のソフトなまちづくり事業の一つとして、全国的に知名度が高いものです。		
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる(②↓) ②成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容→)	これまで築き上げてきたオアシスや探検地図などの資産があるので、ソフトとして事業を継続し、新たな参加者を迎え、まちづくりに関心を持つ区民を増やしていくことは可能です。 これまでのイベント主体の事業から、まち歩きやまちの魅力についての情報発信を主とした事業に転換します。		
	(3)受益者負担の見直し余地は ない(理由→)	休憩所(オアシス)や道標などの施設管理は行う必要があります。		
	(4)コストを下げる余地はあるか ある[その他](具体的内容→)	今後の情報提供については、区民(すぎまるサポーター)が主体となって、企画運営に関わることで、コストを下げるのが可能です。		
協働等点検	(1)協働等は実現しているか 十分に実現している	(2)協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)		
	(3)協働等の形態 協働[実行委員会・協議会]	(4)協働等の今後のあり方 推進		
評価と課題	自分たちのまちを知ってもらうきっかけづくりであり、小さな子どもから高齢者まで参加できる事業として継続します。今後は新規利用者が増えるようにボランティア等の協力得ながらPRなどの仕掛けを考え、最小の経費で効果の上がる事業としていきます。			

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	○ 増	● 現状維持	○ 減	コスト:	○ 増	● 現状維持	○ 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	すぎまるサポーターと相談し、ホームページを一部更新しました。景観週間等イベント開催時に知る区ロードのパンフレットや探検地図の配布を行いました。まち歩きの情報提供を主とした事業への転換を目指していますが、すぎまるサポーターが主体となって企画運営を行い、区が支援するという体制での事業展開は困難な状況です。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	知る区ロードパンフレット、探検地図の古くなった情報を更新するほか、知る区ロード事業のPR方法を再点検し、だれもが関心を持ち、参加しやすく、満足感を得られる仕掛けづくりを考えます。							
(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	イベントが休止となり、情報提供を主とした内容に転換したため、探検報告をするすぎまるマガジンも無く、知る区ロードを歩こうという参加意欲が下がると考えられます。まちづくりや景観のイベント機会を捉えて知る区ロードのPRに努めます。								
23年度方針	(1)23年度予算見積の方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし		
	(2)理由	まち歩きの情報を中心に、新たな展開方法を模索し、事業の見直しも見据えながら継続していきます。							



# 平成22年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 372

21年度 の事業 実施 状況	(1)主な取組み  ※(執)(細)は、事業費の内訳として会計上設定している項目	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		まちづくり活動団体補助金	8	団体	440
		まちづくり協議会運営費助成(執)		団体	0
		まちづくりコンサルタントの派遣	3	団体	312
		まちづくり景観審議会の運営	4	回	688
		その他 (講師謝礼ほか)			1,409

(2)事業実績  
まちづくり活動団体数8団体、コンサルタント派遣数3団体と、前年と同規模で推移しました。協議会の認定が、京王線連続立体の関係で1件ありましたが、京王線連続立体に関する協議会助成事業が他部署に移ったため、協議会への助成実績が0件となりました。  
平成21年7月にまちづくり景観審議会を設置し、4回開催しました。

事業環境 の変化	事業開始当初から 現在までの変化	(平成)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	(年度)
		活動助成団体数	12	12	15	13	8	5	7	7	8	8	8
	コンサルタント派遣団体数	2	3	2	6	5	3	1	0	2	3	3	(団体)
	協議会助成団体数	-	-	-	1	1	2	2	2	4	0	0	(団体)

事業に対する住民の意見(事業に対する期待・要望・苦情など)  
まちづくり条例の改正により、新たにテーマ型まちづくり協議会としての認定が規定されました。活動助成を受けた団体がより手厚い支援を求めて新たな認定協議会へのステップアップを期待しているものと思われます。

今後の予測  
区民がある程度自由にテーマを決めて活動できるテーマ型まちづくり協議会の制度が浸透し、まちづくり協議会認定数が増えるものと予想されます。これに伴い、コンサルタントの派遣数も増えるものと予想されます。

事業の あり 方 点 検	(1)施策への貢献度は大きい	左の理由または具体的内容	
	貢献度 大(理由→)	区民の自主的なまちづくり活動に対して、まちづくり条例に位置づけられた技術的・経済的支援を行うことで、より区民のまちづくりへの参画を促進します。	
	(2)①現在の事業費で成果を向上させることができるか		
	ある程度できる(②↓)		
	②成果向上のための方策	制度の周知ときめ細かい団体へのケアです。	
その他(具体的内容→)			
(3)受益者負担の見直し余地は	身近な地域環境の改善向上を図る目的で行われる区民の自主的なまちづくり活動を支援するものであり、受益者負担にはなじみません。		
ない(理由→)			
(4)コストを下げる余地はあるか	まちづくりは区民、行政、事業者による協働のもとに推進される必要があり、とりわけ区民の参画を促進するためには、区のさまざまな支援が必要です。		
ない(理由→)			

協働等 点 検	(1)協働等は実現しているか	(2)協働等の相手	
	一部実現している	NPO・ボランティア・市民活動団体((3)へ)	
	(3)協働等の形態	(4)協働等の今後のあり方	
	協働[補助・助成]	推進	

評価と課題  
まちづくり景観審議会、まちづくり協議会の認定1件、杉並区景観計画(案)の審議を行いました。  
新たに杉並区まちづくり助成要綱を制定し、まちづくり活動の初期段階からまちづくり協議会に至るまで、区民の活動形態に応じた支援ができるようになりました。本制度の区民へのPRを行い支援団体数を増やすとともに、活動の初期段階への支援について取り組みやすい運用を検討し、協議会数増に向けた工夫を行ってまいります。

改善・見直しの方向(中長期)	成果:	○ 増	● 現状維持	○ 減	コスト:	○ 増	● 現状維持	○ 減	
	(1)前年度の改革案の取り組み状況(22年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	まちづくり助成団体に助成金の支給以外に、まちづくりコンサルタント派遣制度のPRを行い、積極的な本派遣制度の利用を促しました。							
	(2)改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) ※事業のあり方点検欄を踏まえて記入	平成22年度から活動期間中に中間発表会を設け、各団体の活動状況の把握及び団体への助言を行ってまいります。また、まちづくりコンサルタント派遣制度のPR及び団体育成のため他部署との協力体制をつくってまいります。							
	(3)改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法	活動助成団体の負担にならないよう中間発表会の運営方法を工夫します。また、意義を理解されるよう、申請の段階で説明してまいります。協力体制確立のため、他部署に対し本支援制度を説明し、理解を得られるよう努めてまいります。							
23年度方針	(1)23年度予算見積りの方向性	○ 大幅増	○ 増	● 増減なし	○ 減	○ 大幅減	○ 予算なし		
	(2)理由	本制度の周知及び運用改善に努めてまいります。							